

1961年 大阪大学周辺











2015年 大阪大学周辺

今日のお話し

・里山の魅力とその維持について考えます。

都市景観と自然

自然は私たちの生活空間形成に少なからず 影響を与えています。

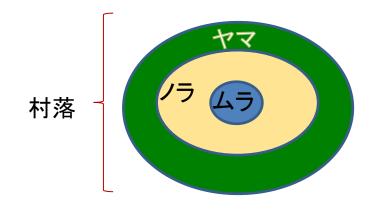
街の骨格を形成している場合もあります。

写真資料:地図・空中写真閲覧サービス http:mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do.#1



空間認識の枠組みを形づくる里山

- ・ムラに住む人の空間認識はムラ、 ノラ、ヤマ 福田アジオ(民族学者)
- ・日本人が親しむ河川はムラに流れている中小河川



身体でコミュニケーション

里山の魅力

里山には花や実がいっぱい。 ウグイスやコゲラなどの野鳥などの野生の動物との出会い。 美しい。 かわいい。 こわい。

知識より先に感性

人間の認識は感性と知性の協働作業

里山で、美しい花を見、野鳥の声を聞き、ちょっと怖いへビを見、かわいい目をしたカエルをおどかして、楽しく一日を過ごすことを体験

生き物とのコミュニケーション、生き物を介した仲間とのコミュニケーション

里山の植物



ササユリ



ホタルブクロ



ウツギ



タニウツギ

里山の生き物



カスミサンショウウオ



ニホンジカ



ニホンアカガエル



ホンドキツネ(子狐)



ヒバカリ

大阪植物観察会の活動







楽しむために植物や風景を観賞

- ・里山、たまには水源のある奥山
- ・川辺の植物、海辺の植物も
- ・寒い時は室内で



2001年6月発行



2012年3月発行10周年記念



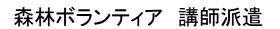




作品展



園児とも





活動の多様性

身近な自然活動(里地里山の活動)

- 組織や個人の目的いろいろ
- ・社会的意義活動の場を維持撹乱に依存する植物や動物を保全→避難場所→生物多様性維持に必要

川での活動

- 生き物に親しむ
- ・アユやウナギ等をターゲットに環境改善 河川敷きの植物も

森林林業活動

- •森林林業への理解拡大,支援
- ・森林組合との協働→森林組合が信用を付与して活動の場を提供
- ◎生物を関係性で理解→活動団体もネットワーク

課題

活動の持続性 担い手の高齢化 世話役、事務部門の人が特に不足 新たな人材の確保

活動の広がり

- 活動の場所信頼性の確保→自治体又は森林組合の介在が必要
- ・人材 里の存在する自治体の人材だけでは限界→吹田市のような都市の人が参加
- ・視野 多様性は感動の源→豊かな生態系→森里川海のつながり →多様なグループとネットワーク

ご提案

基本認識

- 自然環境は公共財(みんなのもの)
- →自然科学的な価値だけではない。
- →好きだから、楽しいから活動できる。

吹田市

里地里山浜辺の僅かな存在や痕跡 里地里山は今でもまちの骨格 空間認識→熱心に活動する人々(豊かな人材)

豊かな人材を北摂の自然の中で 都市部の自治体と里山の自治体の連携 都市部の自治体と森林組合の連携

- →水源環境機能を高める里山整備と管理
- →生物の多様性を高める里山整備と管理
- →自治体による人材供給策→里山講座の開催等
- →ネットワークによる視野の拡大→里山から海まで

